

上半期総括と今後の取組み

代表取締役社長
小林 敬一

2019年11月5日
古河電気工業株式会社

将来情報についての注意事項

この資料に記載されております売上高及び利益等の計画のうち、過去または現在の事実に関するもの以外は、当社グループの各事業に関する業界の動向についての見通しを含む経済状況、ならびに為替レートの変動その他の業績に影響を与える要因について、現時点で入手可能な情報をもとにした当社グループの仮定及び判断に基づく見通しを前提としております。

これら将来予想に関する記述は、既知または未知のリスク及び不確実性が内在しており、例として以下のものが挙げられますが、これらに限られるものではありません。

- ・米国、欧州、日本その他のアジア諸国の経済情勢、特に個人消費及び企業による設備投資の動向
- ・米ドル、ユーロ、アジア諸国の各通貨の為替相場の変動
- ・急速な技術革新と当社グループの対応能力
- ・財務的、経営的、環境的な諸前提の変動
- ・諸外国による現在及び将来の貿易規制等
- ・当社グループが所有する有価証券等の時価の変動

従いまして、実際の売上高及び利益等と、この資料に記載されております計画とは大きく異なる場合があることをご承知おき下さい。なお、当社グループは、この資料の本リリース後においても、将来予想に関する記述を更新して公表する義務を負うものではありません。

著作権等について

この資料のいかなる部分についてもその著作権その他一切の権利は、古河電気工業株式会社に帰属しており、あらゆる方法を問わず、無断で複製または転用することを禁止します。

古河電気工業株式会社

- 上半期実績は減収減益
- 主な事業セグメントの状況

(減益要因)

- ・情報通信ソリューション：ファイバ・ケーブル事業の価格競争激化と北米光ケーブルの生産性改善の遅れ
- ・機能製品：データセンタ市況の低迷継続

(増益要因)

- ・エネルギーインフラ：国内・中国での電力事業改善

(単位：億円)

	18年度上半期 実績	19年度上半期 実績	前年比
売上高	4,874	4,552	▲322
営業利益	176	108	▲68
営業利益率	3.6%	2.4%	▲1.2

事業ポートフォリオの見直しを実施

銅管事業 (2019年9月発表)

- ・銅管、銅管部品および銅板事業のCTJホールディングス2合同会社への譲渡 (2020年3月予定)

巻線事業 (2019年9月発表)

- ・Superior Essex社との巻線事業の合併会社設立および当社グループ太物巻線事業等の合併会社への譲渡(2020年4月予定)

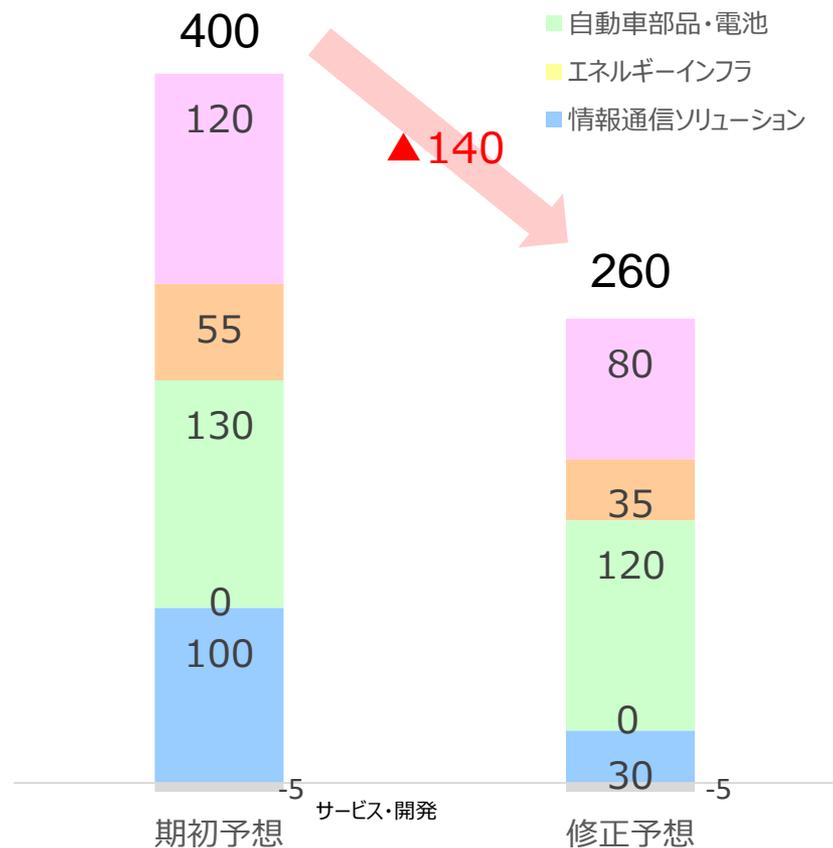
⇒ **今後も引き続き事業ポートフォリオ最適化に向けた
経営リソース配分を推進**

市場	期初前提	現状見通し 当社事業への影響
光ファイバ・ケーブル	<ul style="list-style-type: none"> 中国市場停滞に伴う世界各地での大幅な価格下落 	<ul style="list-style-type: none"> 価格下落は想定以上かつ長期化見通し 欧州・アジアでの売上減
自動車	<ul style="list-style-type: none"> 自動車世界生産台数の伸び 前年比 +1~2% 	<ul style="list-style-type: none"> マイナス成長 (▲4~5%) 自動車部品は、Q2より各地域で売上減少傾向
エレクトロニクス	<ul style="list-style-type: none"> スマートフォン、PC市況は、下期に向けて徐々に回復を見込む 	<ul style="list-style-type: none"> 市況低迷が長期化 銅条、巻線事業が下振れ (自動車市況の影響もあり) サーマル製品、銅箔事業が下振れ
データセンタ	<ul style="list-style-type: none"> 18年度Q4から伸びが減少。 19年度Q3から徐々に回復を見込む 	<ul style="list-style-type: none"> 低迷は底打ちも、回復基調はややスロー。Q4から本格回復を見込む メモリーディスク、サーマル製品を中心に下振れ傾向も、下期改善見込み

■ 年間の営業利益予想を下方修正

(単位：億円)

- 機能製品
- 電装エレクトロニクス材料
- 自動車部品・電池
- エネルギーインフラ
- 情報通信ソリューション



主な修正要因 (単位：億円)

情報通信ソリューション (▲70)	<ul style="list-style-type: none"> ・中国需要減による欧・亜での光ファイバ・ケーブルの価格競争激化 ・北米光ケーブルの生産性改善遅れ
エネルギーインフラ (±0)	修正なし
自動車部品・電池 (▲10)	<ul style="list-style-type: none"> ・自動車市況低迷
電装エレクトロニクス材料 (▲20)	<ul style="list-style-type: none"> ・エレクトロニクス市況低迷
機能製品 (▲40)	<ul style="list-style-type: none"> ・銅箔の台湾拠点火災影響 ・データセンタ市況回復遅れ

■ 19年度年間予想

※営業利益減少に加え、持分法投資損益の減少により、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益は期初予想を下回る見通し

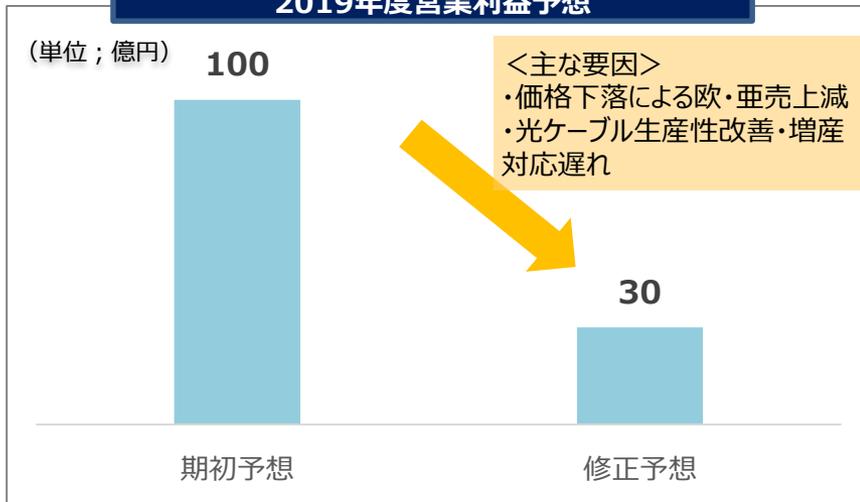
※ 下期の為替および銅価前提を見直し（為替：期初\$ = 110円、今回\$ = 105円、銅価：期初700円、今回640円）

（単位：億円）

	18年度 実績	19年度 期初予想	19年度予想			期初予想差
			上半期実績	下半期予想	通期予想	
売上高	9,916	9,600	4,552	4,548	9,100	▲500
営業利益	408	400	108	152	260	▲140
営業利益率	4.1%	4.2%	2.4%	3.3%	2.9%	▲1.3
経常利益	391	375	84	141	225	▲150
親会社株主に 帰属する当期純利益	291	210	61	49	110	▲100

1. 光ファイバ需要は、中国・インド以外は総じて良好だが、汎用ファイバ価格は大きく下落（中国の輸出影響を強く受けた地域で顕著）
⇒ 当社は安易に価格追随していない・・・欧州・アジアで売上減
2. 北米光ケーブル需要は成長継続、受注環境も良好だが、当社の生産性改善、増産対応に遅れ
⇒ 受注機会損失、生産性改善に伴うコスト増

情報通信ソリューションセグメント
2019年度営業利益予想

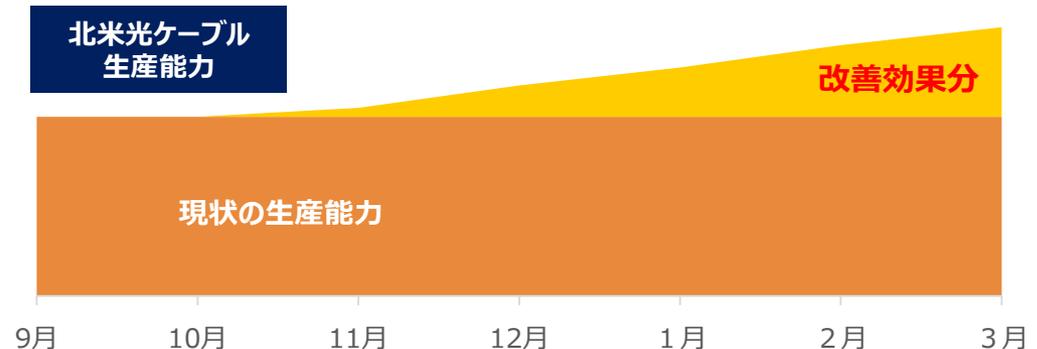
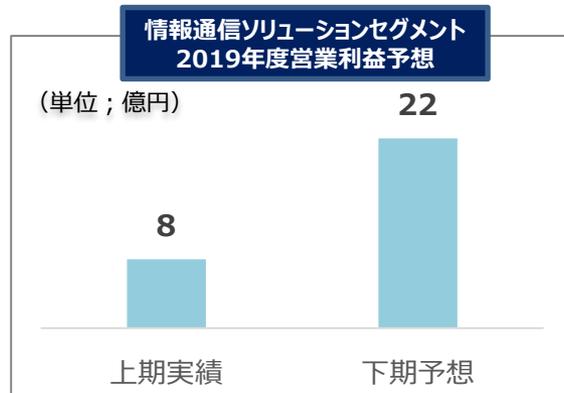


光ファイバ当社出荷数量
(2019年度見通し前年比)

	期初予想	修正予想
グローバル全体	+約15%	➡ +約5%
北米	+約2割	➡ +約3割
EMEA	+約3割	➡ ▲約3割
アジア (中国除く)	+約2割	➡ ▲約3割

■ 収益改善に向けた取組み

	高付加価値製品の商品力強化と拡販推進	生産性改善・コスト競争力強化
光ファイバ	5Gネットワーク構築/データセンタ間接続向け 超低損失・低曲げ損失ファイバ	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバルサプライチェーン強化 ・汎用/高機能ファイバの低コスト化
光ケーブル	<ul style="list-style-type: none"> ・データセンタ向け多心高密度ローラブルリボンケーブル（欧米、アジア、日本国内など） ・欧州FTTH向け高密度細径マイクロケーブル <p>※超低損失・低曲げ損失ファイバを使用</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・北米光ケーブル生産性改善 ⇒ 能力増、コスト低減で拡販余力を拡大

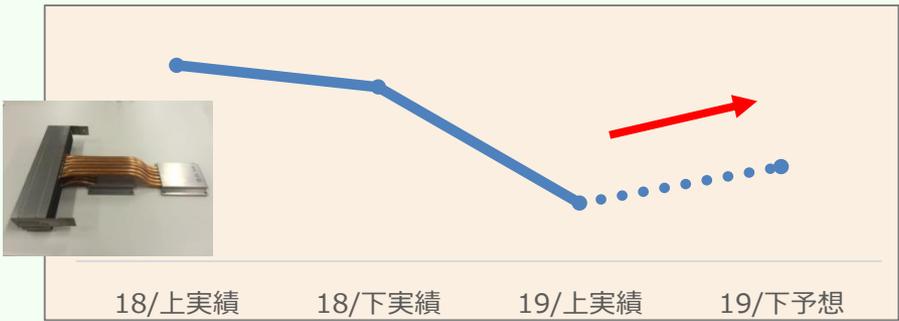


■ 主にデータセンタ市況回復ペースの遅延と銅箔の台湾拠点火災影響により下方修正

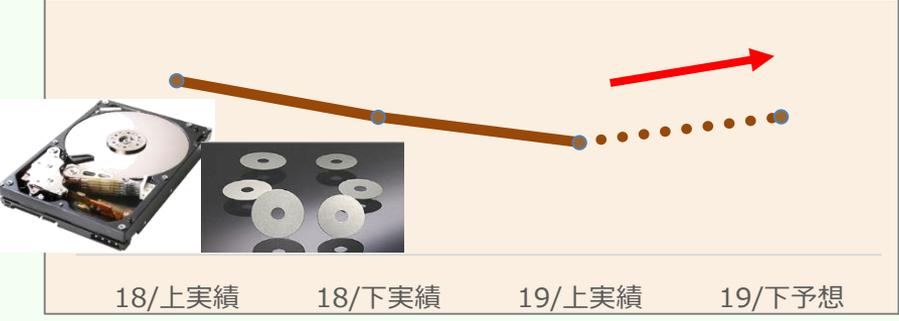


売上高 サーマル製品

下期に向けて
徐々に回復見込み



メモリーディスク



銅箔

・火災による営業利益への影響額は
▲16億円程度を見込む

<火災影響>

(億円)	上期実績	年間見通し
営業損失	▲ 8	▲16
特別損失	▲ 6	▲ 9
合計	▲ 14	▲ 25

・来年度に向け、一部設備の復旧と高付加価値製品へのシフトを進め、収益性の回復を目指す



- 今年度は、業界全体の低迷により年間業績予想を下方修正
- ただし、顧客による当社アルミワイヤハーネスの評価は高く、中長期的にさらなる受注の積上げが期待

<自動車業界>

・19年度は北米、中国、インド中心に成長鈍化。20年度も弱含み

<当社>

・Q2以降、各地域で売上減少傾向、20年度も厳しい状況が予想

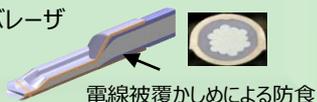
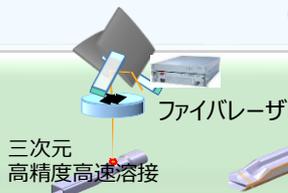
・高級/大型車やSUVの販売は比較的底堅く、21年以降は堅調に推移する見込み。

軽量化要望による当社アルミハーネスのさらなる受注増も期待

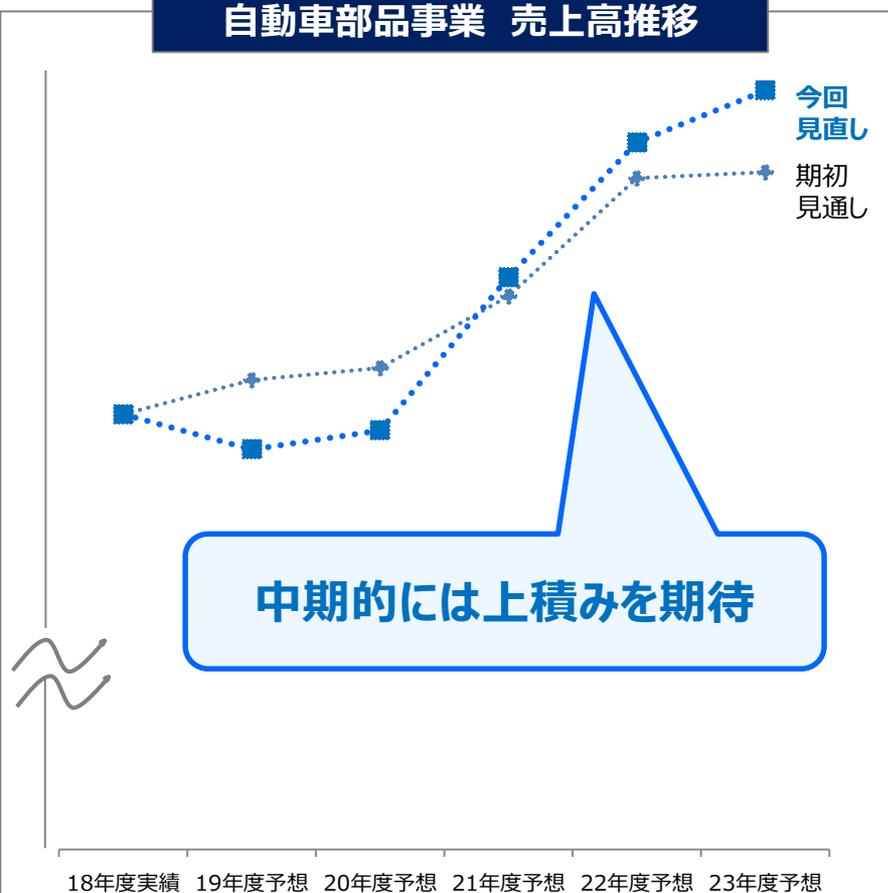
ワイヤハーネス



α端子



自動車部品事業 売上高推移



- エレクトロニクス市況の低迷長期化により業績予想を下方修正
- 今後、自動車市場での「電動化」/「自動運転技術」、「IoT」や「AI」による通信デバイス、センサ、制御デバイス、受動部品等で、素材にも多様な特性が要求。市場変化に合わせた高付加価値製品の拡販を推進

<銅条・高機能材>

電子機器の高機能化に対応した
オリジナル合金の拡販



<巻線>

5G通信インフラ向けやサーバ用イ
ンダクタ向けに差別化した巻線の
拡販



エネルギーインフラ事業

■ 国内案件にフォーカスという戦略のもと、電力事業はマイルストーンに対し順調な進捗

・9月の台風影響で電力事業の一部の設備稼働を約3週間休止したものの、産業電線・機器事業を含めた原価低減努力や価格改定等でカバー。超高压ケーブルの引き合い状況は堅調で、年間の業績予想に変更なし

・電力事業部門内で組織再編を実施。スマイルカーブ全域のカバー体制強化

地中&海底ケーブルトータル設計・提案力強化と顧客層拡大を目的に「海洋エンジニアリング部」を「新エネルギーエンジニアリング部」に

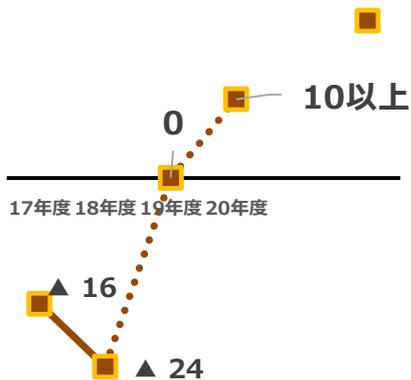
【産業電線・機器事業の再編実施】

- ・昭和電線ホールディングス株式会社との「**建設・電販市場向け汎用電線事業**」の業務提携、**販売統合**を実施
- ・共同出資(古河電工40%)による販売会社を設立(2020年4月予定)

スマイルカーブ



エネルギーインフラセグメント 営業利益推移 (億円)



主な活動ポイント

主要な対象

- ファイバ・ケーブル事業のグローバル成長再加速
- エネルギーインフラ事業の戦略実現の蓋然性向上と早期化
- 銅条・高機能材事業の製品ミックス最適化の更なる進化
- 間接部門（購買・物流など）の効率化、生産性改善

拡販・
営業力強化

ものづくり
強化

購買・物流
対応力強化

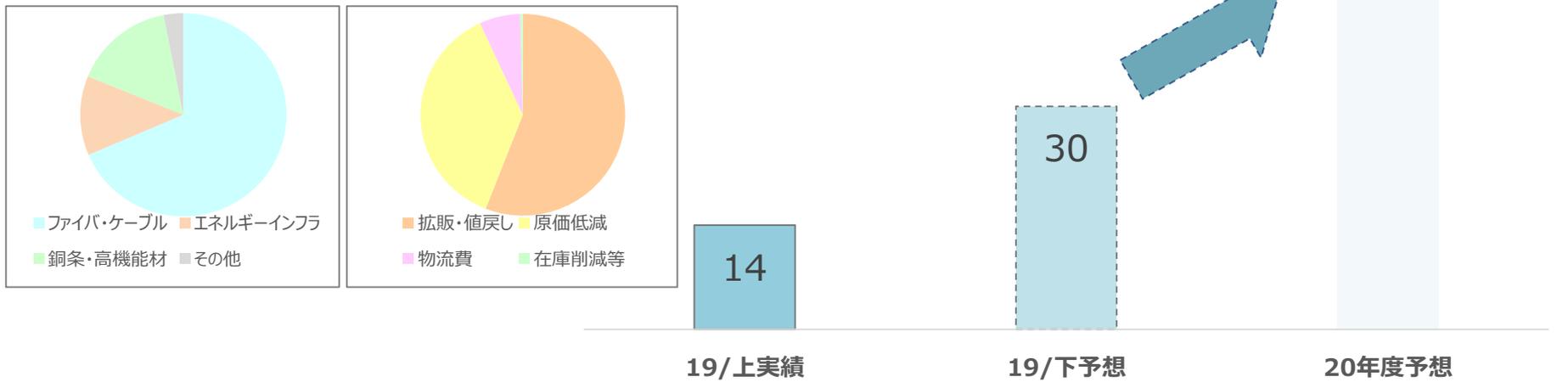
投資効率
強化

施策ごとに明確なマイルストーンを設定し、週単位でPDCAを回すことで実行力を強化する

活動内容および効果金額

- ファイバ・ケーブル：** 高機能ファイバおよびそれを用いたケーブルの拡販
製品ミックスの最適化を意識した受注活動の推進
生産性改善・原価低減
- エネルギーインフラ：** ケーブル製造能力向上等による生産性改善および工事施工能力の増強
高付加価値製品拡販（施工性の良さを特徴としたケーブルおよび部品等）
- 銅条・高機能材：** 製品ミックス改善に向けた高付加価値製品拡販（オリジナル合金等）
製販連携の強化と原価低減

効果額（営業利益ベース、億円）



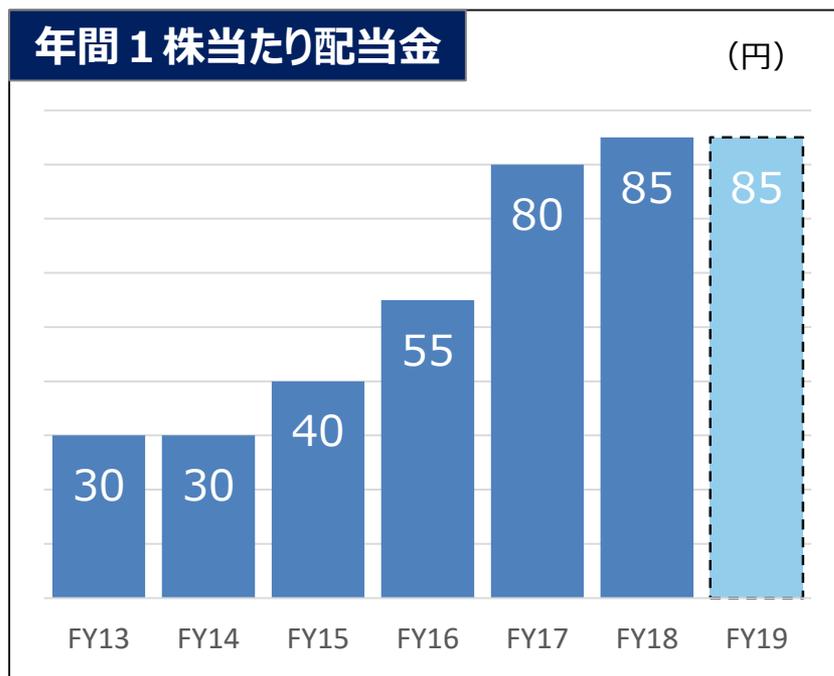
18年5月に設定した経営数値目標を達成すべく
さまざまな努力を継続中も、2020年度の数値目標を見直し中

	2018年度 実績	2019年度 予想	2020年度中計目標	
			16/5時点	18/5時点
営業利益	408億円	260億円	400億円 以上	550億円 以上
当期 純利益	291億円	110億円	200億円 以上	300億円 以上
NET D/E レシオ	0.81	0.8	—	<0.8
自己資本 比率	30.3%	31%	—	>30%
ROE	12.0%	5%	>8%	>10%
事業資産 営業利益率	11.2%	7%	10% 以上	10% 以上

■ 今年度の配当予想は、1株当たり85円（変更なし）

	17年度実績	18年度実績	19年度予想 (2019/5/14公表)
年間1株当たり 配当金	80円	85円	85円

株主還元については、
成長投資と財務体質改善との
バランスをふまえながら、
安定配当方針を継続いたします



ご清聴ありがとうございました。

Bound to  ***Innovate***